

セメスターシリーズ
Semester Series



**THE WORLD OF
MOTHER
GOOSE**

マザー・グースの世界

Shozo Kishi



N A N ' U N - D O

参考書目

◎ 原文

Iona and Peter Opie (ed.): *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*
(Oxford University Press)

William S. and Ceil Baring-Gould: *The Annotated Mother Goose*
(New American Library)

◎ 日本語訳

北原白秋『まごあ・ぐうす』(角川文庫)

谷川俊太郎『マザー・ゲース』1~4 (講談社文庫)

◎ 解説書

平野敬一『マザー・ゲースの唄』(中公新書)

なお、拙著『マザー・ゲースをしてみてください?』(南雲堂)もお読み
いただければ幸いです。

[ヒアリング || リーディングの力がつく]

『5分間マザー・ゲースの世界』

A SHORTER COURSE IN MOTHER GOOSE

カセット・テープ
(全1巻)

[収録箇所]

「マザー・ゲースの唄」1~41

お近くの書店へご注文のうえ、お買い求めください。

南雲堂

☎ 03-3268-2384

はしがき

英語の伝承童謡は、‘Nursery Rhymes’あるいは‘Mother Goose Rhymes’と呼ばれています。日本では、北原白秋の翻訳以来、「マザー・グースの唄」と呼ばれることが多いようです。800から1,000篇もあるといわれる伝承童謡が、英語の中で占める位置がどんなに重要なものであるかは、しばしば論じられています。そこから、41篇の歌を選ぶことになって、はたと当惑しました。結局、有名な歌の中から、適当に選ぶよりほかはありませんでした。せめて、出来るだけ各種の歌をとりあげてみようと思ってみました。

1.～6. は、生まれたばかりの乳幼児の頃にまず耳にする歌です。7.～11. は、子どもの遊び歌。12.～16. は、子どもの身近な生き物を歌ったもの。17.～22. の主人公は少年少女です。23.～25. はユニークな人物。成長していった子どもは、26.～28. のような歌に親しみ、29.～30. のような物語も楽しめます。子どもにとって、31.～32. のような「おばあさん」も忘れられない存在です。33.～35. は季節の歌。36. は「なぞなぞ」。37. から後は、独特のナンセンスな歌です。最後の41. には、思春期の恋の歌もとりあげました。

各ユニットの構成は、まず歌があり、それに続いて[MEMOS]では、歌に関連する人物や背景などを記載しました。次の[QUIZ]には、「なぞなぞ」や「諺」、関連のある詩などが出ていますから、“EXERCISES”のつもりで、取り組んで下さい。最後には[NOTES]がつけてあります。

マザー・グースの歌のリズムは、英語のリズムそのものです。テープなどを利用して、暗唱できるまで何度も繰り返して聞き、声を出して歌えば、英語習得に大いに役立つはずです。

ここにあげたマザー・グースの歌はほんの一部にすぎません。これを契機にしてほかの歌にも親しんでいただけたら、これほど嬉しいことはありません。その時、おそらくあなたの英語もほんものになっていることでしょう。

マザー・ゲースとは？

Nursery Rhymes とは「童謡」「童歌」の意味ですが、それを「マザー・ゲースの唄」(Mother Goose Rhymes) というのは、なぜでしょうか。イギリスで初めて童謡集が出版されたのは18世紀初めであり、童謡集に初めてマザー・ゲースの名前が用いられた『マザー・ゲースの唄』(*Mother Goose's Melody*) が出版されたのも18世紀後半のことでした。Mother Goose というのは、フランスの作家ペロオ(Charles Perrault, 1628–1703)の童話集が翻訳されたときに、Contes de Ma Mère L'Oye というフランス語を Mother Goose's Tales と英訳したのが最初のようなのです。この翻訳出版が1729年ですから、この後で出た童謡集にもマザー・ゲースを借用したのでしょう。アメリカには、マザー・ゲース実在説がありました。17世紀後半に、マサチューセッツ州ボストンに Elizabeth Foster Goose (または Vergoose) という女性がいて、彼女が孫たちに歌って聞かせた童謡が *Songs for the Nursery, or Mother Goose's Melodies* 『童謡マザー・ゲースの唄』と題して出版されたというのですが、どこにもこのような本は存在しません。日本でもこの話はかなり以前から知られていました。どうやらこれは、アメリカ人のマザー・ゲース好きに由来する架空の物語のようです。今は、イギリスでは Nursery Rhymes, アメリカでは Mother Goose Rhymes と呼ぶことが多いようです。日本では、「マザー・ゲース」を用いるのが一般的です。

CONTENTS

	<i>Page</i>		<i>Page</i>
1. Hush-A-Bye, Baby	6	22. Little Jack Horner	27
2. Diddle, Diddle, Dumpling ..	7	23. Mary, Mary	28
3. This Little Pig	8	24. Old King Cole	29
4. Ride A Cock-Horse	9	25. Peter Pumpkin Eater	30
5. Rub-A-Dub-Dub	10	26. One, Two, Buckle My Shoe .	31
6. Wee Willie Winkie	11	27. What Are Little Boys Made Of?	32
7. Pat-A-Cake	12	28. Peter Piper	33
8. Pease Porridge Hot	13	29. Sing A Song Of Sixpence ..	34
9. Ring-A-Ring O'Roses	14	30. Who Killed Cock Robin? ..	35
10. Oranges And Lemons	15	31. The Old Woman In A Shoe .	36
11. London Bridge	16	32. Old Mother Hubbard	37
12. Baa, Baa, Black Sheep	17	33. To The Rain	38
13. Ladybird	18	34. Hot Cross Buns	39
14. Hickory Dickory Dock	19	35. The North Wind	40
15. Three Blind Mice	20	36. Humpty Dumpty	41
16. Pussy Cat, Pussy Cat	21	37. Hey Diddle Diddle	42
17. Georgie Porgie	22	38. The Man In The Moon	43
18. Little Bo-Peep	23	39. The Crooked Man	44
19. Little Miss Muffet	24	40. Jack And Jill	45
20. Little Boy Blue	25	41. The Lover's Tasks	46
21. Little Tommy Tucker	26		

1. *Hush-A-Bye, Baby*

Hush-a-bye, baby, on the tree top,
 When the wind blows the cradle will rock;
 When the bough breaks the cradle will fall,
 Down will come baby, cradle and all.



[MEMOS]

もっとも有名な子守歌。ゆりかごを木の上に置くと危険な話であるが、これに似た風習の地方もあったとか。この「危うさ」から、イギリスのアニメ作家ブリッグズ (Raymond Briggs, 1934-) は、反核寓話『風が吹くとき』 (*When the Wind Blows*) を書き、映画化して話題となった。核戦争のもとで無力な庶民の姿をゆりかごの赤ん坊にたとえたのである。この歌は、「おごれるものへの警鐘」だという解釈もある。When pride cometh, then cometh destruction. という諺もある。人気のある子守歌をもう一つ。

Bye, baby bunting,
 Daddy's gone a-hunting,
 Gone to get a rabbit skin
 To wrap the baby bunting in.



[QUIZ]

日本ではどうか:

Pride and grace dwelt never in one place.

[NOTES]

Hush-a-bye 日本の「ねんねんころり」に当たるあやし言葉。rock-a-byeともいう。
cometh (古形) = comes **Bye** = Hush-a-bye **baby bunting** 「ポッチャリ赤ちゃん」
dwelt = lived